

【記 録】

令和2年7月豪雨における文化財被災 — 人吉市、球磨村、相良村の未指定文化財の被害状況を通して —

大平和明^{1)*}

1 山江村歴史民俗資料館 〒868-0092 熊本県球磨郡山江村大字山田甲1360

要 旨

「令和2年7月豪雨」は人吉球磨にも甚大な被害をもたらした。多くの人命と住居等を失ったばかりでなく、「相良700年」の歴史遺産をも濁流の被害となった。泥水に汚れた神仏像を目の当たりにして、何かをしなければという気持ちだけで、人吉市、球磨村、相良村の被災した未指定文化財の救出・保存に携わってきた。これまでの体験を取りまとめて、今後あってはならない“文化財の災害”に備えるための記録として、取りまとめた。

キーワード：悉皆調査、被災文化財、文化財保護活動、未指定文化財、令和2年7月豪雨

I はじめに

まったく予期しなかった出来事が起きてしまった。球磨川はその支流も含め、人吉球磨にとっては“母なる川”である。多くの人々が生活し、川から豊かな恩恵を受けてきた。しかしながら、古来より暴れ川となり、流域住民を苦しめてきた川でもある。「令和2年7月豪雨」は、これまでは見られなかった大洪水となり、未曾有の被害をこの地域に落としてしまった。相良700年の歴史を持つこの地域には大切に守り継がれてきた寺社仏堂等が多く、地域の護り神や神仏像など、多数の文化財が豪雨被害を受けた。泥水に汚れた神仏像を目の前にして、私にできること・

何かお手伝いできることはないだろうかという気持ちで、被災した文化財の救出・保存に関わってきた。これまでの体験を取りまとめて、今後あってはならない“文化財の災害”に備えるための記録として、ここに取りまとめたおきたい。

II 球磨村渡地区

(1) 山口釈迦堂(球磨村渡字山口)

被災前の山口釈迦堂は、亜鉛板葺きの平屋建てで、間口・奥行きともに約3mあった。その中には、木造釈迦如来立像の御本尊(像高43.0cm、輪光背、「二千仏法界大円菩薩、文政5(1822)年十二月」の朱書銘、図1(a))、木造不動明王(像高15.5cm、「大円作」の墨書)、および石造地藏坐像が安

*Corresponding author: e-mail: kazuaki3028@gmail.com



図1 山口釈迦堂(球磨村渡字山口). (a) 被災前に釈迦堂に安置されていたご本尊(木造釈迦如来立像)(2020年6月28日撮影), (b) 被災して跡形もなくなった釈迦堂(撮影:2020年7月10日).

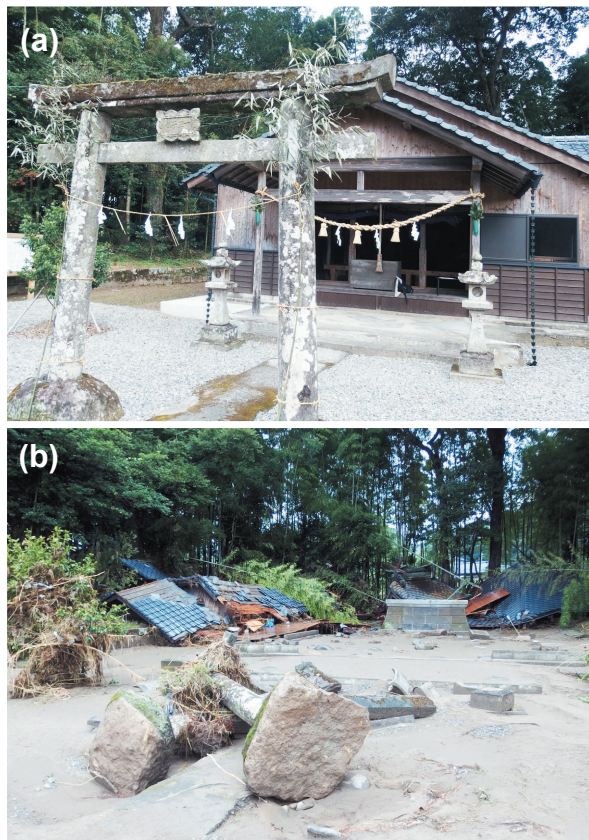


図2 一王子神社(渡阿蘇神社)(球磨村渡字山口). (a) 被災前(2016年11月7日撮影), (b) 被災後, 鳥居が手前に倒れて, 建物も全壊した状態となっていた(撮影:2020年7月10日).

置されていた. しかしながら, 被災後, 令和2年7月10日に状況を確認したところ, 釈迦堂の建物自体が流失して跡形もみられず, 堂内の仏像類も見当たらなかった(図1(b)). 同月12日および13日にも, 流失した跡の瓦礫等を撤去して仏像を探したが, 何も見当たらなかった.

(2) 一王子神社(渡阿蘇神社)(球磨村渡字山口)

明治元(1868)年に渡阿蘇神社と改称された. 阿蘇三柱神が祭神として祀られている. 神社には, 石造鳥居(明和元(1764)年の陰刻), 御饌屋, 拝殿, および神殿が建てられていた(図2(a)).

7月10日に, 現地にて被災状況を確認したところ, 被災によって鳥居は手前に倒れ, 奥の拝殿および本殿はともに倒壊して, 手の付けられない状態となっていた(図2(b)). 8月12日には本殿等が片付けられていた. 本殿石垣上に神像10体ほどが放置されていたので, 神主さんへ盗難等の危険があることを連絡し, その後, 保管された. 10月19日に, 球磨村より同神社が所蔵していた神像11体, 木造狛犬1対, 棟札2枚, および墓股4枚が当館に搬送され, 保管することとなった.

III 人吉市

(1) 大柿毘沙門堂 (人吉市中神町大柿)

被災前の毘沙門堂は瓦葺きで、入母屋造の壁は下見板張り、間口3間、奥行2間の平入りで、1間の向拝があった。堂内にはご本尊である(木造毘沙門天立像(総高161 cm, 像高150 cm, 邪鬼高11 cm, 「文政7(1824)年」銘)ならびにその左脇に童子立像(善膩師童子か?)が、板書3枚とともに安置されていた(図3(a))。

7月10日に被災状況を確認した。洪水発生時には毘沙門堂の上部まで一時的に浸水したと推

定され、建物は全壊し、堂全体が傾いていた。毘沙門天立像と先代と思われる毘沙門像(焼失仏)は毘沙門堂の外に投げ出された状態で発見された(図3(b))。7月22日に、毘沙門像はボランティア4名の手によって人吉城歴史館へ運び込まれた。その後当館へ移送し、現在は当館で展示されている(図3(c))。円光背が欠落しているが、10月11日にその半分が毘沙門堂の外で発見された。

(2) 大柿観音堂 (人吉市中神町大柿)

被災前の観音堂は瓦葺きの入母屋造で、約3m四方の平屋、平入の観音堂であった。その中には、



図3 大柿毘沙門堂 (人吉市中神町大柿)。
(a) 被災前 (撮影: 2019年12月18日), (b) 被災後、堂外に投げ出されていた毘沙門天立像 (撮影: 2020年7月10日), (c) 現在、当館に展示されている毘沙門天立像。

御本尊（木造聖観音立像，像高 56 cm，舟形光背に「奉彩色観音菩薩立像 文政七歳・・・」の墨書銘），小厨子の中に木造観音坐像（像高 28 cm），ならびに石造如来坐像（近代作）が安置されていた。

7 月 10 日に被災状況を確認した。建物の天井部分まで浸水し，半壊状態となっていた。観音堂前にお住まいの榊氏が，被災後に泥まみれの聖観音像を洗って堂中に置かれたが，翌日にはなくなっていたとのことであった。御本尊本体は被災後，盗難にあったと考えられ，後日，警察へ盗難届が提出された。なお，御本尊の台座および光背



図4 大柿観音堂(人吉市中神町大柿)．ボランティア 3 名で堂内の泥出しと掃除が行われた（撮影：2020 年 8 月 1 日）。



図5 ボランティア 37 名が参加して，平重盛供養塔組み上げや五輪塔群復元の復元作業が行われた（撮影：2020 年 10 月 11 日）。

は残っている。その他，観音坐像および如来坐像は，被災によって行方不明となった。8 月 1 日には，ボランティア 3 名によって堂内の泥出しと掃除が行われた（図 4）。

(3) 伝平重盛の墓・五輪塔群（人吉市中神町大柿）

この地には，平重盛の墓と伝えられる五輪塔（大永 5（1525）年銘）ならびに約 80 基五輪塔群，寛永 14 年（1637 年）銘の板碑等や「こまつさん」と呼ばれている石像がある。7 月 10 日に被災状況を確認した。10 月 11 日には，ボランティアを募ったところ 37 名が参加して，平重盛供養塔組み上げや五輪塔群復元の復元作業を行った（図 5）。

(4) 朝日権現社（人吉市中神町大柿）

祭神は霧島神社と団体で，1523（大永 3）年に再興されて，この時に現在地に遷座された。弘治元（1555）年および寛文年中（1661～1672 年）に修造された（図 6(a)）。神社内には男神像（木造の桧一木造，像高 31.6 cm）と女神像（木造の桧一木造，像高 26.3 cm）が安置されていて，像背には「大ゑい十三年・・・」（応永 13（1406）年の銘がある。その他，狛犬の阿吽が 2 体（像高 26 cm）および棟札 2 枚（「嘉永二年（1849 年）西三月廿八日吉辰」の銘）が納められていた（図 6(b)）。

7 月 10 日に被災状況を確認したところ，建物は全壊し（図 6(c)），屋根部分は 150 m ほど先の堤防を越えて球磨川手前に引っ掛かった状態で見つかった。安置されていた男神像，狛犬，棟札 2 枚は，いずれも行方不明となった。8 月 1 日に神社があった場所の瓦礫を取り除いて探したが，見つからなかった。なお，男神像 2 体および狛犬 1 体は，8 月 12 日に，球磨川手前まで流された神社の屋根の下から発見され（図 6(d)，(e)），10 月 11 日に残りの狛犬 1 体の尾の部分が発見された。



図6 朝日権現社（人吉市中神町大柿）。

(a) 被災前の神社，(b) 被災前の神社の内部：左から狛犬1対，男神像，女神像，右隅に棟札2枚，(c) 被災して全壊した神社，(d) 神像の搜索（男神像および女神像ともに，流された神社の屋根の下から発見された.），(e) 救出された直後の神像と狛犬。
撮影日：(a) および (b) 2019年9月13日，(c) 2020年7月10日，(d) および (e) 2020年8月12日。

(5) 白木神社（人吉市中神町大柿）

祭神は天之御中主神で，石造の鳥居と本殿（間口二間，奥行一間）および拝殿（間口三間，奥行四間）がある。7月10日に被災状況を確認したところ，建物は半壊状態で，拝殿内は床上1mほどの高さまで浸水した跡が見られた。本殿は1段高くなっていて，浸水被害はなかったようである。地元の人に聞いても，本殿内に異常はなかったとのことであった。

(6) 小柿観音堂（人吉市中神町小柿）

被災前には木造阿弥陀如来立像（像高33.5 cm）および坐像（像高32 cm）が安置されていた。被災により建物は大規模半壊した。屋根まで浸水し，扉が壊れて，中に安置されていた仏像2体が流失し，行方不明となった。このうち，阿弥陀如来立像は，その蓮華座の台座（図7(a)，前面は朱塗りで後面は黒塗。ホゾまでが横幅20 cm，縦幅15 cm，高さ20 cm）が，中神町大柿の柿愛子氏宅に

流れ着いた。台座は7月22日に人吉城歴史館へ運び込まれ、その後当館に搬送された。一方、仏像本体は、大柿長太氏が被災から数日後に中神町大柿の球磨川堤防下の流失物から発見し、自宅に保管後、9月7日に当館へ運び込まれた。像高33 cm、光背(板光背)までの高さが38 cmで、鼻と右手首が欠損していた(図7(b))。10月11日に、当館に展示されている像を見に来られた地元(小柿)の人が確認し、台座と仏像が一体であることが判明した。2021年1月17日に地区住民の方が総出でお堂を修理され、還座供養が行われ、6か月ぶりに観音像はお社に戻られた(図7(c))。



図7 小柿観音堂(人吉市中神町小柿)。(a) 中神町大柿の柿愛子氏宅に流れ着いた阿弥陀如来像の台座、(b) 中神町大柿の球磨川堤防下の流失物の中から発見された観音像本体、(c) 同観音堂で行われた還座供養(撮影:2021年1月17日)。

(7) 湯元観音堂(人吉市温泉町)

この観音堂は相良三十三観音8番札所で500年近い歴史があり、湯楽寺跡とも言われている。御本尊は聖観音立像(像高50 cm)で、毘沙門天立像や女神像も安置され、直径17 cmの鰐口(天保4(1833)年製作)も置かれていた。

被災によって建物は大規模半壊し(図8(a))、御本尊は破損して接着面が外れ、バラバラの状態となった(図8(b))。毘沙門天、女神像、聖観音菩薩2体(近代作)ならびに鰐口は残存していた。被災後は、町内会長の自家用車内に保管されていたが、人吉城歴史館を経由して、現在は当館に保管されている。なお、女神像の背面には「元和五年巳未御本地豊姫大明神・・」という墨書があるのが判明した(元和五年は1619年)。



図8 湯元観音堂(人吉市温泉町)。(a) 大規模半壊した観音堂、(b) 破損してバラバラ状態となった御本尊(聖観音立像)(撮影:2020年10月17日)。

(8) 豊光院跡釈迦堂（人吉市下薩摩瀬町）

豊光院は原田に創建され、寛政6（1794）年に薩摩瀬へ移設され、さらに大正年間に現在地へ移設されたといわれている。ご本尊は木造釈迦如来坐像で、その台座には「薩摩瀬豊光院 寛政六年六月再興之者也 仏師安利常忠 当役渡辺健介 恒松安之勝」の墨書銘が残されている。

被災によって、建物の屋根部分まで浸水し、その一部が損壊した。戸（扉）が壊れて、仏像が流出した。台座と光背は、しらさぎ荘（人吉市下林町）にて発見され、人吉城歴史館に運び込まれた。8月26日には当館へ移設し、保管することとなった。その際に、この件で下薩摩瀬町内会長を訊ねたところ、仏像の本体も発見されていてその保管先を判明し、当館で保管されることとなった。

令和3年1月28日、釈迦堂の修理が終わったため、町内会の方が取りに来られて、6ヶ月ぶりに仏像は元の場所に還座された（図9）。



図9 豊光院跡釈迦堂（人吉市下薩摩瀬町）。6ヶ月ぶりに釈迦堂に還座された釈迦如来坐像（撮影：2021年1月28日）。

(9) 新町地藏堂（人吉市新町）。

この地藏堂は、貞享4（1687）年に宗慶寺地藏を新町現在地に移したという記録がある。木造地藏菩薩坐像で、像高25cm、右手に錫杖、左

手に寶珠を持つ。光背は舟形光背（高さ37cm）で、高さ23cmの台座（蓮華座）の上に像が鎮座する。7月17日に被災状況を確認すると、地藏堂の天井付近まで浸水したと推定され、一部損壊していた。地藏像は泥水に浸かったためか、特に台座の接着が外れて、バラバラになっていた（図10）。7月19日には地元の人たちが堂内外の泥出し作業を行った。地藏菩薩像は清掃された後、地元公民館に保管された。その後、9月15日に当館へ搬送されて、現在、同館に保管されている。



図10 新町地藏堂（人吉市新町）。泥水に浸かって一部破損した地藏像（撮影：2020年7月19日）。

(10) 夫婦えびす神社（人吉市九日町）

この神社は、棟札によると、数度にわたって遷座が行われていることがわかる。現在地に2003年に遷座されたが、男神像1対は天正11（1583）年に京都の仏師の日高民部少輔秀永作と伝えられている。7月8日に被災状況を確認したところ、神社の建物は屋根まで浸水し、半壊した（図11(a)）。内部の神像は泥まみれとなって、そのままでは取り出せない状態となっていた。7月31日に神像2体を祠から取り出し、当館で保管した（図11(b)）。9月19日にはボランティアによって片付け作業が行われた。



図 11 夫婦えびす神社（人吉市九日町）。
(a) 屋根まで浸水し、被災して半壊した神社の建物（撮影：2020 年 7 月 8 日），(b) 祠から取り出された直後の神像（撮影：2020 年 7 月 31 日）。

(11) 人吉伊勢神宮（人吉市紺屋町）

本殿内の厨子に木造青面金剛立像が安置されていて、台座には「嘉永七申寅十月彩色 佛師馬場安平」の墨書銘が残されている（嘉永七年は 1854 年）。この神社の隣に「庚申堂」があったとされ、現在は本殿内に安置されている。境内に 2 社の祠（稲荷堂、恵比寿堂）があり、恵比寿堂には木造雨宝童子像（「大圓自作」の墨書銘）が安置されている。7 月 17 日に被災状況を確認したところ、本殿の屋根近くまで浸水し、青面金剛像も泥まみれとなった。境内内の祠 2 社も完全に浸水し、建物は一部損壊していた。8 月 21 日に、青面金剛像等が当館に運び込まれた。

IV 相良村

(1) ハツ田薬師堂（相良村柳瀬字中村）

被災前は、木造瓦葺き（間口・奥行きともに約 2.7 m）の社の中に、木造薬師如来立像（全高 149 cm）、木造月光菩薩立像（全高 69 cm）、木造日光菩薩立像（全高 64 cm）、十二神将（全高約 35 cm、1 体の像の裏に「かち木快扶岩屋寺住寶寿坊」の墨書銘）、毘沙門天立像 2 体が安置されていた。

7 月 17 日に被災状況を確認したが、建物は全壊し（図 12(a)）、堂内は床上 120 cm ほど浸水していた。御本尊薬師如来立像はそのまま立っていたが、他の像は床に落ち、一部は堂外に流出し、管理人が回収して堂内へ戻されていた（図 12(b)）。7 月 30 日に当館へ仏像 18 体運び込み、8 月 29 日には堂内の泥出しを 3 名で行った。



図 12 ハツ田薬師堂（相良村柳瀬字中村）。
(a) 被災した堂，(b) 堂内（撮影：2020 年 7 月 17 日）。

(2) 深水寺（相良村深水小字前田）

深水寺は人吉大信寺3世の実誉が開山したと伝えられている。被災前には、御本尊（阿弥陀如来立像）の他、多くの仏像が安置されていた。被災によって、建物は大規模半壊し、須弥壇下まで床上浸水して、須弥壇下に安置されていた仏像が浸水被害を受けた。10月10日には、深水寺から4体の仏像が当館に運び込まれた（図13）。



図13 被災した観音像（撮影：2020年10月10日）。

この他に、人吉市内では、湯ノ原神社（人吉市温泉町）、八坂神社（人吉市下林町）、宝来薬師堂（人吉市宝来町）、太子堂（人吉市大工町）、若宮神社（人吉市五日町）、相良村の池王堂（相良村柳瀬陣の内）などを被災確認のために訪れた。相良村池王堂は流失して跡形もなくなってしまい、4体あったとされる神像は行方不明となった（図14）。なお、球磨村渡地区以西は交通規制があるためまったく確認が取れていない（令和3年3月現在）ことが気になっている。



図14 被災し、流出して跡形もなくなった相良村池王堂（撮影：2020年10月5日）。

V 所在地不明の神仏像

未だどの堂祠に安置されていたか不明の神仏像がある。新聞等で呼びかけたが、未だわかっていない神仏像を本誌に紹介する。

(1) 観音坐像

7月22日、人吉市中神町大柿の大柿義史氏宅の庭に厨子とともに漂着して発見された（図15(a)）。厨子は朱塗り、横43cm、縦30cm、高さ55cmの大きさで、上部屋根面は欠損して台座裏には「○水庵」の墨書銘がある。2週間ほど泥まみれの状態であったと推測された。人吉城歴史館を経由して、当館に運び込まれた。

(2) 女神像

人吉市中神町大柿の大柿長太氏が自宅前の流失物を片付けている時に発見した。水で洗うと顔が見えたので驚いたとのこと（図15(b)）。9月7日に当館に運び込まれた。高さ28cm、像底幅13cm

(3) 阿弥陀立像

8月1日、人吉市中神町大柿の球磨川堤防下で朝日権現社の神像探索中に、中山久男氏が流失物

の中から2枚の位牌とともに発見した。仏像は人吉城歴史館に運び込まれ、後日、当館に移送された。像高33 cm、顔前面・右手・左手首は欠損し、螺髪と金箔塗がある。この他にも近代作と思われる

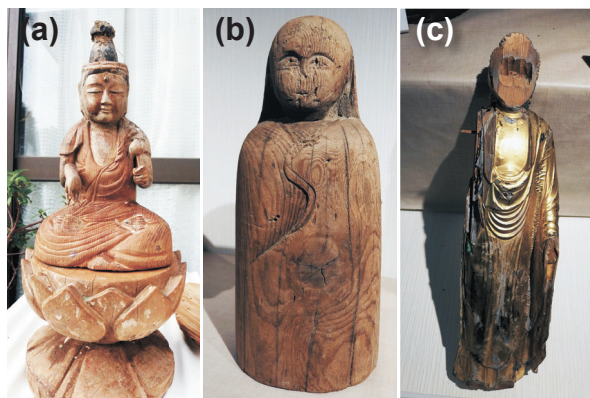


図 15 所在地不明の神仏像。
(a) 観音坐像, (b) 女神像, (c) 阿弥陀立像。

仏像2体も当館で保管中である。これらの神仏像は帰る場所がなく、未だに当館で坐しておられる。一日も早く我がお堂・祠が見つかることを祈る。

VI 被災文化財に関わって見えてきた課題

1. 小柿観音堂の仏像2体のような未指定文化財は調査もなされておらず、写真すらなかった。幸いなことに地元の人が撮影されていたので助けとなったが、未指定文化財の悉皆（しっかい）調査を行っておく必要性を感じた。未だにどこの仏堂のものか分からない仏像があることを考えると、なおさらのことである。
2. ほぼ1人での活動であった。県には文化財レスキューの組織はあるが、地元（郡市レベル）での組織が必要である。伝平重盛供養塔の復旧ボランティアを呼びかけたところ、多くの人に参加してもらい、復旧することができた。文化財を守ろうとする意識は高い地域なので、

組織づくりは可能だと感じている。

3. 泥まみれになった多くの神仏像に携わったが、よくないと思いながらもまずは水洗いした。被災等を受けた取り扱いマニュアル等があると、対応の不味さは軽減されると思った。
4. 今後、どのようにお堂や神仏像を復旧・復元するかが大きな課題である。自宅ですえ再建困難と言われている人達に、集落で維持してきたお堂の再建や神仏像の修復は困難なことである。公的支援が望まれるが、難しい問題である。

VII おわりに

被災翌日に人吉市九日町商店街を歩いて、その被害の大きさに驚きの連続だった。すでにボランティアの方も入られて片づけを始めておられた。被災された方々は生活再建のために住宅等の片づけを行われていた。近くにあるお堂は手付かずのままでとても気に入り、私に何かお手伝いできることはないか？というところから始まった被災文化財との関わりであった。半年が経った今でもほとんどの未指定文化財は取り残されている。熊本地震からようやく神社が再建した！という報道を見ると、人吉球磨地方での復旧も、もう少し長い時間がかかるような気がしている。それまでは何らかの形で携わっていかねばならないと思う。また、筆者の活動には多くのボランティアの皆さんの協力を得た。文末ながら深謝申し上げる。

VIII 参考文献

1. 求麻郷土研究会編 1990. 郷土第19号. 求麻郷土研究会.
2. 上村重次 1965. 九州相良の寺院資料. 金輝堂書店, 216 pp.